



水瓶座のミューズ

ルシア



詩作は思索に他ならない
最も良い詩行の生まれるのは
美の詩神が薔薇色の指で
わたしの額に触れるその瞬間

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_)m)



あなたが薔薇の花を手折ると
真っ赤な薔薇はこう申します

「それでもわたしはあなたを愛している」
と――

あなたが堇の花を踏みつけると
可憐な堇はこう申します「わたしはあなたのことを許します」
と――

あなたには信じることができますか？
そんなにも深く優しい自然の愛を――

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



夜の王の濃紺色をしたマントが
黄昏の女王の緋色のドレスのたなびきを
ゆっくりと覆い尽していきました——

そしてあとには
海辺の砂のように数えきれないほどの
星々の口付けだけが残されて——

明け方、暁の女王は
夜の王のベッドからそっと抜けだしました
その誇らしげな愛を燦然と輝かせるために——

そして空に瞬く明けの明星と白い月とが
夜の王との神聖な誓いの印なのでした

(☆表紙画像及び挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」
<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_)m)



雀はとても愛らしい
身近な生き物

毎朝必ずとっていいほど
聴くことのできるその歌声は
荘厳なオペラのアリアというわけではないけれど——

目覚ましがわりにもなる
この素朴な歌声を
もはや聴けぬとわかった時には——

人は雀の存在を
それは本当に愛らしく思い返すことでしょう

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



心に苦しみのある者が
心の中から苦みの種をもぎとって
それを土の中へと埋めました

やがて痩せこけた土の中からは
小さな芽が萌え出で——
美しい花を咲かせるまでに成長しました

そして苦みの種の持ち主は
美しい花の馨しい匂いを嗅ぐと——
その花に〈喜び〉という名前をつけたのでした

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは日陰の花

誰かが踏み潰したとしても
顧られることすらない
日陰の花

誰かが茎をへし折ったところで
これっぽっちの同情すら得られない
日陰の花

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしはとても大人しくて目立たない
日陰に咲く花でした

その上見栄えがあまりに良くないという理由から
多くの人に踏みつけられて
わたしの花卉はまったく散ってしまったのでした

けれどもある時
とても優しい人がわたしの脇を通りかかり——
哀れに思ってわたしを根から救いだしてくださったのでした

わたしは日当たりの良い
栄養も十分な土地に植えかえられ
とても幸福になりました——

わたしが今いる土地は
エデンの園と同じ土から出来ていて
そこに群生する草花は
永遠に枯れることを知らないからです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人の一生は長い

もしわたしたちが寿命を全うして死ぬのなら

人の一生は短い

もしわたしたちが寿命の半ばで息絶えたとしたなら

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしが十字架以外によって
他者を理解することなどはありえない

例え多くの人々が
職業や経歴や容姿や住んでいる家などで
他者を理解しようとするのだとしても——

わたしはただ十字架によってのみ
人間を理解する

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



<熟考>がいつもわたしの喉を詰まらせた
誰のことをも傷つけることのないようにとの配慮から——

ある時、わたしは酒場で<熟考>の末に
<ある言葉>を発言した——

ところが言葉の受取人は
何を勘違いしたのか
わたしの言葉を<挑発>として受けとめたので——

口論の果てにわたしは彼の喉にとどめを刺して
窒息死させてしまったのだ——

目には見えぬ言葉の剣によって——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



素晴らしいものを手に入れた、と思いました——
長年夢見続けてきたものが
とうとうわたしにも与えられたのだと——

けれどもわたしが手にしたものはといえば
よくよく見てみるとただのガラクタで——
その保証書も偽物でした

そして長年夢見続けてきたわたしの心のほうこそが
実は尊い宝石だったのです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



有名になることや
お金持ちになることには
わたしはさして興味がない

<有名人>になることの代価と

<お金持ち>になることの代価が

どこか魂の裏側で知らないうちに取引されているのではないか、
ということを考えると――

たまらなく不安になって

自分が乞食のようにしか思えなくなってしまいそうだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは人生の貸方と借方が
ぴったりと合っている人に出会ったことがない

人生の帳尻とは常に合わぬもので
愛情というものは誰もが抱える
返しつくせない大きな負債なのだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたし自身にもし
苦しみというものがなかったとしたら——

果たしてわたしには想像できただろうか？
他の人々の苦しみや悲しみといったものを——

わたしは思う
だからこそこの世に苦しみや哀しみといったものが
消えてなくなることはないのだと——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



10tの苦痛を背負うことには慣れている
何故ならわたしの足に繋がれている鎖の先には
同じ重さのものが日常的にとりつけられているから——

けれども1mmgの〈歓喜〉に対して
わたしはあまりにも無防備——

馴れないものを口にする時
人は必要以上に拒絶反応を示してしまうもの——

あるいは過剰に反応を示しすぎて
せっかくの幸福である〈歓喜〉の小鳥を
むざむざ捕り逃してしまうのです

ものですm(_)m)



人生とは 時に 苦しく
つらく
虚しいもの

そして 時に 明るく
楽しく
喜ばしいもの

わたしたちに襲いかかる
この幾重もの感情の波——

苦しくても明るく
つらくても楽しく
虚しくても喜ぼうとする前向きな精神——
これこそが<生きる>ということなのではないでしょうか



わたしは毎朝祈る
今日も一日が豊かに祝福されていますように、と

わたしは毎晩祈る
明日も一日が豊かに恵まれたものでありますように、と

そして毎日の祈りを真珠玉のネックレスのように
糸を通して連ねることができたとしたら
それは本当に本物の宝石

巷に出回っているどんな宝石よりも
それは高価で美しい

たとえネックレスが千切れて
真珠がバラバラになるようなことがあったとしても

きっとわたしにはまた作りだせる
——新しい日々を

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



運命の女神を部屋の中へ迎え入れたあと
彼は素早くさっとドアを閉め 鍵をかけた——

もう二度と彼女以外の誰かが
この扉を開くことのないように——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは人生のある時期に
〈苦悩〉という名の金鉱を掘り当て——
それ以来ずっとその鉱山に住んでいる

〈苦悩〉という名の錆びた鉄屑を
〈歓喜〉や〈恍惚〉という名の黄金に変えるため——
その錬金術の業を習得するために——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」〈<http://www.first-moon.com/>〉の
ものですm(_ _)m)



小さな頃

わたしの理想の職業は〈靴磨き〉でした

どんな人のどんなに汚い靴でも
心をこめてピカピカにする――

そんな職業に就きたいものだと
ずっとそう思っていました

やがてわたしが大きくなってから
実際に〈靴磨き〉の仕事を始めると――

ほとんどの人はわたしのことを笑いそしり蔑み
ぞんざいな態度で靴を突きだしたのでした――

まるで〈お情けで靴を磨かせてやっている〉
とでもいうかのように

でもやはりわたしは今も
職業を変えようとは思っていません

世の中には嫌な人が多いのも事実ですが

中にはとても心の美しい人もいて——

そのような人は
ピカピカの靴をわざと磨いてほしいと言って
優しく微笑みかけてくれるからです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



ズボンの右のポケットに
小石をたくさん入れました

もしも何かあった時には
それで敵をやっつけるため——

けれどもわたしは人からいくら非難されても
いわれのない中傷を受けても
ただひたすらじっと我慢しました——

ズボンのポケットに入っている小石を
つらい時にはぎゅっと握るようになって——
するとある時、あることに気づかされました

小石が互いにくっつきあって
大きな石の塊になっているということに

そしてそれをポケットからとりだすと
オパールのように虹色に輝く宝石になっていたのです

わたしは心の底から驚いてしまいました——
わたしはなんという貧乏な金持ちなのだろうと——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



きっと天の御国では
乞食はみんな大会社の社長で

物乞いたちはみな
貴族の子息か御令嬢——

ホームレスたちはみんな
総督か大統領だ

わたしはそんなふうに想像するのが好き——
たとえ地上の富んでいる人々が
わたしのそんな考えを
「貧しい」と言って笑ったとしても——

ものですm(_)m)



もしもわたしたちが天国へ行けたとしたら
わたしたちは魂の目でものを見
魂の耳でものを聴くことができるのでしょうかね

そこでは富める者も貧しい者もなく
健常者も障害者もなく
能力の高い者も低い者もない

天国ではすべての民に
〈永遠〉という名の市民権が与えられ
人は皆平等に暮らしているのに違いない――

でもだからこそ神は
天国の有難みがわかるようにと
人のこの世における〈迫害〉と〈困難〉とを
お許しになられるのでしょうか

ものですm(_)m)



わたしの心の中の水瓶は
涙ですべて埋めつくされてしまいました

その水は海水のように塩辛くて
飲み水にも使えなければ
他になんの用途にも役立たないように思われたのですが——

その中から塩分を蒸留する術を
わたしが心得てからは——

水瓶の中の水はすべて
わたしにとって<財宝>にも等しいものとなりました

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人の<死>とは
とても深くて悲しいもの

どのくらい深いか
その水深は恐ろしくて
誰にも推し測ることなどできはしない

悲しみの水は
あまりに冷たく透明で

まだ生きている者の心臓さえも
凍りつかせてしまいそうなほど――

もしもその深い海の中で
心だけ溺れたとしたなら――

体のほうは
どうやって生きながらえたら良いのでしょうか

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは毎日<命の井戸>から水を汲んだ——

それは並大抵の作業ではない——

命の水はとても重くて貴重なものなのだ

一日一杯、自分の飲み水を確保するのも
事欠くことさえあった——

命の水はとても深いところにあり
その水は重く
桶を綱で引き上げるのには
とてつもない労力を必要とする——

しかしわたしはこの仕事を
一日たりとも休むわけにはいかないのだ

心の砂漠で死にかかっている者を
ひとりでも多く救いだすために——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人の心も体も弱いもの
ただ魂だけが強い

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人生の喜びなんて
束の間で
儚くて
虚しいもの――

でもこれほど美しいものを
わたしは他に見たことがない

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



あなたの優しさや純粋さを
心ない人々が罵ったとしても
気にしないで

誰かがあなたのことを
不用意な言葉で傷つけたとしても
気にしないで

ただ
わたしが心の底からあなたを愛しているということ——
どうかそのことだけは忘れずに覚えていて

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



あなたがもし
人から中傷されて傷ついているなら
こう考えなさい

人の噂話とは
ガン細胞のように広がるものなのだ

あなたがもし
これから人に中傷されるようなことがあったら
こう考えなさい

「この人たちは精神がガン細胞に犯されている
とても可哀相な人たちなのだ」
と――

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



殺してしまいなさい
あなたの中で<絶望>を

それからあなたが
無意識のうちにも抱いている
<世の中>というところに対する憎しみをも

そして<孤独>を愛しましょう
世の中の<矛盾>を慈しみましょう

<希望>や<愛>や<夢>は
そんなに遠い世界の物語ではなく

道端に生える雑草みたいに
身近で愛しいものなのだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



もしもあなたがいなければ
地球はまるで死んだ惑星

もしもあなたがいなければ
空は<失神>し

酸素は<窒息>し
海は潮の満ち干きを忘れてしまうことでしょう

もしもあなたがいなければ
花は咲くことを忘れ
土は枯れることすら渴望する

そして希望は<絶滅>し
愛は<消失>してしまうでしょう

もしもあなたがいなければ.....

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_)m)



わたしは何度も繰り返し
自分に言い聞かせようとしてきた——

世界は美しさに満ち
人生は素晴らしいもので
生きる価値の十二分にある舞台だと——

しかしいつまでも
自分の心を騙し続けることはできなかった——

でもそれでも
絶望を目の前にして目が眩み
苦しみに耳鳴りのする時にも
わたしは告白し続けよう

この世というところは生きる価値の十分にある
とても素晴らしいところだと！



この世の雑事に心を奪われている暇は
わたしにはあまりない

わたしは魂の素晴らしい瞬間に向けて
目を凝らすことに対して
いつも余念がないから

鋭い悲しみがこの胸を突きとおす時にも
虚無の風が心の砂漠の上を吹き荒れる時にも
苦悩という名のぬかるんだ道の上を歩く時にも

わたしの眼差しは
魂の素晴らしい瞬間に向けて
なんとか出発の準備を整えようとする——
「いつかはきっと……」という期待と希望を胸に

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人間とは
〈希望〉がなければ生きられない
奇妙な生き物——

わたしは今日も一筋の
希望を胸に生きている——

ああ、だが一体これまでに何度
この〈希望〉が〈失望の闇〉へと変わったことが——

ああ、それなのにわたしはまた
希望を胸の羽飾りとして
夢を見ようとしている——

いつかは自由に羽ばたけるであろうことを信じて——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



彼女は<幸福>に
免疫というものがなかった——

それで幸福になる直前で
怖じ気づいて逃げだしてしまった——

まるで結婚式を挙げる直前になって
教会から逃げだした花嫁のように——

でも<幸福>は彼女のことを
本当に心の底から愛していたので——
逃げる彼女の後ろをどこまでも追ってきた——

それで彼女は最初の幸福を選択するよりも
あとのほうがずっと幸福になったのでした

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>> のものですm(_ _)m)



過去はわたしを苦しめたがって
わたしに現在（いま）を生きさせない

<過去>という名の獰猛な獣が
わたしの心を食い荒らしては散らかしていく

何度もとのとおりにしまい込んでも
忘れた頃にやってきては、そうしていく

（☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m）



あの時

もしもわたしがもっと勇気をだしていたら.....

なんて考えるのはおよしなさい

人生に＜もしも＞は禁物

それはただ狂気へと下る道筋の道標みたいなもの

もしもわたしがあの時

もっと頑張っていたら.....

なんて考えるのはおよしなさい

人はあまりに頑張りすぎると

人生の何もかもが虚しくなるという

無気力症候群に取り憑かれてしまうものなのだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



絶望は素晴らしい
光が一筋も差してこない場所などは

それに引き換え希望はまるで魔物のようだ
ない幻を人に見させようとする

希望は輝かしい光溢れる面（おもて）とは別の
恐ろしいもうひとつの暗い顔を常に隠し持っている

<絶望>という名の仮面を――

（☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



わたしたちのひとりひとりが
人生という名の戦場で闘い
疲弊しきっている兵士

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは決して
誰のことをも笑えない

何故ってわたしは
〈苦悩〉や〈苦痛〉を追い求めるあまり
笑うことを忘れてしまった者だから——

自分自身が苦しみを覚えない瞬間にも
誰か他の人の苦しみや悩みを想像しては

苦しんでいる者だから——

だからわたしの苦しみが終わることは
これからも決してないだろう——

この地上に嘆き苦しむ人が
ひとりも絶えてなくなるまでは——

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



苦しみに追いかけている、
と思うからこそつらくなる

わたしはむしろこの痛みというものを
地の果てまでも追いかけて追いつめ
彼らのひとりも残さず殺してしまおう

そうすれば彼らは震えおののきながら
わたしに仕えるようになるだろうから——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



<苦悩>や<苦痛>とは
味わいつくしてなお
さらに訪れるもの

その<苦悩>の底の知れなさ
その<苦痛>の終わりのなさに比べたら——

わたしは「絶望がなんだ」、「幸福がなんだ」
と狂ったようにわめきちらしてしまいそう——

そして<苦悩>と<苦痛>がようやくの思いで去ったあとにも
もう一度それが訪問しにきたらどうしようかと恐れるあまり——
わたしの精神は廃人同様になってしまいました

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人の〈怒り〉という感情には耐えられる——
もしそれが正当な主張であるならば——

また人の〈憎しみ〉という感情にも
おそらくわたしは耐えられる——
いつか時がそれを癒してもくれるだろうから——

だが人間のひねくれ曲がった醜い卑しさには
一体誰が耐えられるだろうか

「人の心の陰険さは
死ぬまで決して直らない」と
神さまさえも聖書の中で諦めているほど——

人間の業の深さとは
見捨てられた井戸のように深くて
底の知れない恐ろしいものだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



挫折とは

神から送られる最も偉大なプレゼント

挫折を経験した者の魂は

以前よりも大きく翼を広げて

荒野を飛び駆けることができるのだから——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



小さな白い鳥が窓辺にやってきて言いました
「魂に羽のある者の名を知っているか？」
と――

次に大きな黒い鳥がやってきて言いました
「地平線の向こう側にある世界の名を知っているか？」
と――

そして二羽の鳥たちはそれぞれ思うところに向かって
飛び去っていきました

誰にも邪魔することのできない
叡智の翼を駆って

ものですm(_)m)



わたしは自由な魂が
野原をどこまでも駆けていくのが好きだ

彼は野を越え丘を越え
山さえもひと飛びにして
どこまでも駆けていく

まるで中国の神獣
麒麟さながらのように——

わたしは自由な魂が
野原をどこまでも駆けていくのが好きだ

彼は絶望の丘を越え
苦しみの山を越え
嘆きの谷さえもひと飛びにして駆けていく

わたしは自由な魂が
野原をどこまでも駆けていくのが好きだ

彼が自由と引き換えにすべてを犠牲にしながらも
何もかもを飛び越えて
あんなにも軽やかにどこまでも駆けていくのが——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



本当の自由の意味は
囚人にしかわからない

束縛を知らぬ者は不幸な者
何故ならそのような者は自由の重みに耐えかねて
それを自ら放棄してしまうであろうから

そして不自由さの中に自ら囚われる者こそが
かえって自由の旗を掲げ持つのだ

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしが貯蓄したいと思うものは
お金ではありません

それは目に見える数字では
決してあらわされることのないもの

地球という名の銀行に
わたしが毎日預けたいと思っているもの——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



例え＜愛＞以外のすべてのものが
いかに整えられていたとしても

人間のすべての手の業に
本当の息吹を与えるものは
ただ＜愛＞ひとつきり——

＜愛＞のない世界は死の世界

まるで太陽と月とが滅んだあとの地球のように
癒しようのない世界なのです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



愛って万能の治療薬
愛に癒せぬ病いはない

例え肉体は死の床にあらうとも
魂に愛情という名の血液が循環しているのなら——

魂が死の上にあって
肉体が健やかなよりもずっといい——
否、そのほうが遥かに勝っているといっいい——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



すべてのことにおいて
結果だけを求めるのは良くないわ

何かの結果に至るまでの過程を
優しい眼差しで見つめなくては——

例え愛を求めて
結果が不幸に終わったとしても

いつまでも不幸だけに目を留めて
人は生き続けることはできないのだから——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



愛の仕事というものは
決して終わりを迎えるということがない

何故なら本当に本物の愛とは永遠で
終わることも枯れることも知らないものだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしにとって<青>という色は
ただ哀しみだけを意味しはしない
それから憂鬱な色だなんてことも
一度として思ったことがない

でもそう……

<赤>という色はまるで
ルビーのような
情熱の象徴で

<黄色>は<黄色>で
蜜蜂たちの運ぶ
花粉のような豊穡を匂わせる

だけどわたしにとって
染みひとつない雪のような白さは
まるで絶望の象徴であるかのよう

そして闇のように濃密な黒さは
わたしにとっては
希望の喜びであるかのよう

諦めという名の——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



蝶々は蜻蛉さんと大の仲良しでした——
一緒に樹の蜜を分けあったり
森の中を競って駆け抜けたりして
毎日楽しく遊び暮らしていたものでした——

でも秋になると
蜻蛉さんはそわそわするようになり
とうとう「ぼく、もう行かなきゃ」
と蝶々の元を去ってゆきました——

蝶々には勿論わかっていたのです
彼が自分の子孫を残しにいったのだということは——

でも一匹とり残された蝶々は
とても寂しくこう思いました——

(自分の連れあいはもう一匹も残っていない)
と——

そして仲良しの花たちに慰めてもらうために
お花畑へと向かったのですが——
その途中で彼女は<事故>に遭ってしまいました

偶然彼女のことを見かけた<学者>と呼ばれる人間が
手に持っていた虫捕り網で
彼女のことを捕まえてしまったのです

「この蝶がまだこんなところにいるなんて」
学者はそう呟きました——

<エゾオオムラサキ>
それが彼女の知らない人間がつけた
彼女の名前だったのです——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは長い間
耐えることこそ美德と信じて生きてきました——

でもあなたに出会って
生まれて初めて知ったのです

耐えることよりも愛することこそ
美德なのだということを——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



もしあなたが誰かに
「この人はどのようにして亡くなられたのですか」
と聞かれることがあったとしたら——

こう答えてください
「この方は喜びの矢に心臓を貫かれるようにして
お亡くなりになりました」
と——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



愛よりも憎しみを
希望よりも絶望を
平和よりも戦争を.....

地上に生きる人間の誰ひとりとして
そんなことを望んではいないのに
どうして世界は天地創造の以前よりも
混沌としているのだろう

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



天使はこの世の汚れに感染すると
あまり長くは生きられない

ましてやこの世というところに
まったくといっていいほど免疫を持たずに生まれた
天使に似た人々などは——

どうやって生きながらえられましょうか

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしはひとりで黙っていた
彼が「一緒においで」と言って
わたしの手を導いてくれるまでは

<永遠>がわたしを誘って
あの崇高な墓場にまで連れて行ってくれた
そこでわたしはただ驚きうろたえる他はなかった

肉体を通して示される
このような永遠にも勝る愛が
地上でも許されて良いのかどうかということ——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



「あなたはそんなにも何が欲しいのですか」
とわたしが彼に訊ねると

「薔薇色をした血が欲しい」
と彼は答えて言いました——

情熱なしに人は生きていくことはできないと
隠喩で彼は答えていたのでした

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



魂に荊の鞭を百度加えられても
決して手放せないものがある

わたしにとって愛情とは魂の別の名で
それはいかなる苦痛にも耐えるから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしが土下座して
あなたの足許に額をこすりつけたとしたら
あなたは許してくださるでしょうか

わたしにはわかっている——
優しいあなたがきっと「許す」と言ってくださるに違いないこと——

けれどもわたしはあなたから
より確かな証拠を与えられたいのです

もしもあなたがわたしを許してくださることが真実なら
どうかあなたの心の庭から薔薇の花を摘みとって
それをわたしにください——

棘だらけの真紅の血の色をした薔薇の花を——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしも多分他の多くの人々と同じように
おそらくはたくさんの過ちと罪とを犯して死ぬでしょう

でもわたしが生きている限り善行に励みたいと思うのは
決して己の罪に対する刑罰を減らしたいからではありません

それはただ愛のためだけになされるものなのです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



肉体は魂の安全なる住処ではない
魂は魂だけで独立した国家だというのに
わたしたちは肉体という名の不自由な共和国で
暮らさなければならないのだから——

そして死に至ってから初めて
本当の自由と本物の独立とを勝ち得ることができるのだ

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



<生>と<死>
<善>と<悪>
<愛>と<憎しみ>
<戦争>と<平和>
<歓喜>と<苦悩>
<希望>と<絶望>
<繁栄>と<没落>.....

わたしたちを日々悩ませるこの二元論
どこかにこのふたつのものの中間はないのでしょうか

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



もしもわたしの手に魔法の杖があったなら
人々の間にある諍いを静め
戦争の悪い実を平和の良い実へと変えることができるでしょうに

もしもわたしの手に魔法の杖があったなら
汚染された水の流れを清めて
その源までも潤すことができるでしょうに

もしもわたしの手に魔法の杖があったなら
飢えた人々の唇に
マナを降らせることも夢ではないわ

もしもわたしの手に魔法の杖があったなら
傷つき倒れた人々の心や体や魂までも癒すことができるでしょう

もしもわたしの手に魔法の杖があったなら.....

(☆表紙画像及び挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」
<<http://www.first-moon.com/>>のものを使用させていただいていますm(_ _)m)



わたしが住みたいのは
美しくて綺麗で繊細で
とても純度の高い国——

その名は<天国>

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



天国は本当に楽しいところなのでしょうか？
それともただ単に退屈なところ？

いいえ、ちっとも退屈なところなどではありませんとも！

だって生きている故人に
もう一度お会いすることのできる
唯一の場所なのですから！

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



時々

<いい人>だけが住んでいる国へ
行きたくなることがある

そこには争いも憎しみも妬みさえなく
住んでいる人々はみな柔和で穏やか——

でもいつもそこまで考えてから
こうも思うのだ

果たして自分がそんな<天国>のような国に
相応しい人間であるかどうかということ——



わたしの<人生>という名の車には
ギヤがローとハイトップしかありませんでした

それで車はすぐに
廃品工場送りとなったのでした

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人生とは
時速400k/mで駆け抜ける
カーチェイス

誰かを追い越し
誰かに追い越されまいとして
誰もがやっきになっている

競争に負けて
クラッシュした
車の残骸の脇を通り抜けても

同情心が沸き起こるのは
ほんの一瞬——

何故なら次の瞬間には
自分の番が回ってくるかもしれないのだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



傷つきすぎた者にとっては
ほんのちょっとした傷が致命傷

心臓はすぐにも乱雑に脈打ち
胃は痙攣を引き起こす
一歩手前で立ち往生

もはやこうなっては死んだほうがましではないかと
賢明な人々は考えるのですが——

狂気にブレーキをかけようとする
ストレスがまたもや加速し——

それで人々は精神科医に
外科手術を求めにいくのでした

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



理性によってではなく、
本能によって飛べ！と
心には命じなさい

頭の中の
大脳や小脳や脳幹などが相談しあって
なんと言おうとも

心の中の分泌線は
目には見えぬものなのだから

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



心はいつも
どのようなことに対しても
耐え抜こうとします

どのような種類の
苦痛であれ
悲嘆であれ
わたしたちには耐え抜くことより他に
選択肢が与えられていないからです

ただ人の心とは
それを宿す体よりも強靱無比なものなので——
心よりもまず追い詰められた体のほうが先に参ってしまい
さらなる苦しみと痛み
悲しみと嘆きとが
増し加わってしまうのです

最もこの悪循環を断ち切るためにこそ
わたしたちは魂の救済を求めてやまないわけなのですが——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



肉体の傷なら外科医が
精神の傷なら精神科医が
癒してもくれるだろう

けれども魂の傷だけは
神おひとりにしか癒せない

体と心の傷ならば
時が解決してくれよう

だが魂の傷だけは——
それがどんなにささやかなものであれ
神おひとり以外には癒せぬのだ

ものですm(_)m)



わたしの心はきのうの夜
自分の心の外科手術のことでいっぱいでした

誰も癒してくれる人がいないので
自分で自分の心を直そうと思ったのです

けれども天国の医療は神のもので
人の手になるものは
地獄の荒療治に他ならないということに気づかされて——

わたしはドリルやハンマーやノコギリなどを
片付けることにしたのです



もしも人の心に 体と同じく臓器が
目に見えぬ形で収められているとしたなら——
それは考えてみるのも恐ろしいことだ

何故ってその人の心の脳が潰れ
眼球が飛びだし
腸や内臓がはみで
心臓が引き裂かれていたとしても——

身体のほうのそれが丈夫なら——

その人は矛盾の示す凄惨さに
気も狂わんばかりだろうから——

そしてそんなことはわたしにとって
想像するのも悲しいことだ

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



わたしはきのう

自分の心に外科手術を施しました

麻酔なしで自分の心臓を切開し

その中心部にメスの刃を沈めたのです

そしてどこかに悪い腫瘍があるはずだと

鏡で左心室や右心室や弁などをよく照らしだし——

どこにも悪いところはないのを発見して

最後に虚しく切開した傷跡を縫合しました

それからわたしは血のついたメスを消毒液に浸し——

深い深い溜息を着いたのでした

どこにも悪いところがないのに

わたしの心はどうしてこんなにも病んでいるのだろうと

うんざりしてしまって——

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_)m)



わたしの心には
荊の棘が
突き刺さっています

随分長い間
考えられ得るあらゆる人間的な方法を駆使して
なんとかこの棘を引き抜いてみようとしてきました——

けれども人々は
わたしを理解しようとするどころか
同情心さえ寄せようとはしてくれませんでした

それどころかかえって
わたしの心の血の流れた傷跡を見て
嘲笑うことさえしたのです

それでわたしも最後の最期には
悟りの境地に到達しました

わたしの心と体と魂とに及んでいる
この忌々しい棘を痛みなしに取り除ける方は
神おひとりに他ならないと——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは希望よりも
絶望のほうをより多く愛した——

何故って希望の光の向こうにではなく
絶望の重い扉の向こう側にこそ
神さまはいらっしゃるのに違いないと
そんな気がして——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは時々こう思う——
わたしが自分の人生に失望したり
絶望したりすることがよくあるように

神もまた人間たちに対して
失望したり絶望したりなさっておいでなのではないかと——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



主よ

一体いつなのでしょう

わたしが魂の負債をすべて返し終えるのは

けれども主よ

一体どういうことなのでしょう

魂の負債をすべて返し終え

「これでやっと楽に息をつける」

と思ったその瞬間に

人が天に召されることなどは——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



主よ

聖書の教えるいわゆる〈復活の刻〉

わたしは一体どのような心で

あなたの御前に引かれてゆくのでしょうか

太陽のように燦然と輝く心によってでしょうか

それとも死刑囚のような凍れる心によってでしょうか

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



天国とは
魂の崇高なる故郷なのでしょうか？

もし本当にそうなのだとしたら
人の死もきっと悲しいだけのものではないのでしょう

もしも＜死＞が究極的な意味において
癒しを伴うものであるのなら——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしの救世主は
否定できない事実を真実をもって
解き明かすことのできる人——

もしもこの方が神でないとしたなら
きっとこの世界に神は存在しない——

この方はわたしの類稀なる苦しみを解放し
わたしの至高の悩みに答えを与えてくださった方——

また人々がわたしに対して嘲笑の刃を向けた時にも

この方だけは盾となってわたしを守ってくださった——

もし他にどなたかこのような方を御存知でしたら
どうかわたしにまで御連絡ください

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしが信じるのは99%の<絶対>ではなく
1%の<もしも>

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



どんなに凄惨な事件が起きても
わたしたちの心にそう長くは
衝撃を与え続けることはできない

それがわたしたち自身の身の上に降りかかった
災厄でない限りは——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人の十の指に
欲望をすべて満たすことなどは決して出来はしない

人の欲望とは死肉を食らう獣のように
飽くことを知らぬもの

飽食に放蕩を重ね
湯水のように金を使い果たしたところで収まることを知らず

「もっともっと」と底無しの腹を満たそうとするのだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



首から下が<本能>で
その上が<理性>で出来ている怪物——

それが人間という者の正体ではないだろうか

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



わたしたちは豊かになり——
そして人々の幸福というものは
それに比例するかのようになつた

真実はひとつでも
人によって見方が違えば
それは無数の瞳を有しているということにもなる

現代人の幸福についても
また同じこと

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトFirst Moon様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



わたしたちはとても疲れている
老若男女、誰ひとりとして例外なく

わたしたちがこんなにも疲れきっているのは
世の中のせいなのか
社会のせいなのか
それとも時代のせいなのか
それは誰にもわからない

あらゆる物事が便利になって
手間がかからなくなっても——

わたしたちはその分を埋めあわせるかのように
自分からあくせくとしてしまうから——

結局最後には悪循環だけが
半永久的に地球を回し続け——

そうして進化にゆきづまったわたしたちは

滅びる以外に道はないのかもしれない

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



永遠の闇の奥底で
死肉を貪る獣が
獰猛さを宿した瞳を光らせている

その獣の名は<狂気>
しかもこの獣が喰らっているのは
<精神>という名の肉で――

わたしはこの<狂気>という名の野獣が
地上に住まうハイエナの群れなどよりも
余程恐ろしいのだ

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



手首を剃刀で切るのには勇気がいる

天井から縄をぶら下げて首を吊るのにも勇気がいる

レールの上に寝転がり、電車が来るのを待つのに勇気がいる

アクセルを思いきり踏み込んで、海の中へと沈むのにも勇気がいる

10階建てのビルの天辺から足を踏み外すのにも勇気がいる

(死ぬのは嫌だ)

(痛いのは嫌だ)

(苦しいのも嫌だ)

(怖いのも嫌だ)

(でも生きているのも嫌なんだ)

死ぬ覚悟を反転させるのには勇気がいる

生き残ることを選択し続けることにはもっと勇気がいる

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



あなたの心の孤独の弁をそっと開いてごらん
ぎゅっと固く握った手をほどいてごらん
肩の力をゆっくりと抜いてごらん
とても自由で幸福な自分を想像してごらん

もしもそれが出来なかったら
——どうしても不可能なことのよう思えたなら——
誰かに相談してごらん

もし誰にも相談できそうになかったら
自分自身に手紙を書いてごらん
そうして自分の興味の進む先へと
初めの一步を踏みだしてごらん

それでももし「死にたい」と思ったなら——
死んだふりをしてごらん
死なない程度に自分を傷つけてごらん

もしそれも嫌なら——

右手に勇気、左手に努力を持ちなさい
あなたが立ち上がるのを待っている人が
広い世界のどこかに必ずひとりはいるはずだから

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_)m)



もしもあなたが自殺したくなったら
次のことをよく考えてみてほしい

あなたは首を吊ろうとするが
首吊り縄はうまく絞まらない

飛び降り自殺しようとするが
かろうじて命をとりとめ植物人間に

猛スピードの車の前に飛びだすが
中途半端に轢かれて無駄な苦しみをすることに

海に飛びこんでも助けられ
睡眠薬を飲んでも病院のベッドで目覚め
手首を切っても同じこと——

結局 わかりきっていることだけれど
生きているのも死ぬことも
ともに苦しくつらいこと

どうか誰かひとりでいい
自分の気持ちを話せる人を見つけてほしい

自殺する日を一日延ばして
もう一度よく考えてみてほしい

本当に他に手段はないのかどうか
よく考えてみてほしい

もしもあなたが今日、たった今死んだとしたら
あなたとまったく同じ人は永遠に生まれてこないということを——
もう一度よく考えてみて

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



もしも＜死＞が＜死＞だけでありえるなら
誰も＜死＞を恐れたりなどしないでしょう

ただ＜死＞に至るまでの
呪いのような生きる苦痛に耐えることを想像すると――

ただそれだけで窒息したくなってしまうのです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



<死>とは無限の闇への跳躍なのか?——

いや、そうではない——

それでは永遠の光の彼方へと消失する
軌道に乗ることだとも?——

おそらく、そうなのだろう——

そしてその先には神の国がある——
聳え立つ建物の荘厳さを持った天国が——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



狂気の馬車に乗る御者は
傷だらけの馬に幾度となく繰り返し鞭をあて——

自分が行くべき道の道筋すら知らず
矢のような速さで駆けていく——

馬の体の肉は赤く裂け
その蹄も割れていた——

しかし気の狂った御者には
馬を思いやる分別などはもはやなく——

馬が死んで倒れたあとも
御者は地面に向かって鞭を打ち叩き——

天に向かって昇っていく馬車に
自分は乗っているのだという幻を見続けている——

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



彼は一心不乱に馬を走らせていた

馬は黒い体に血走った眼をぎらつかせ——
馬上の男は憤怒の形相をたたえている

そして彼がもうひと振りと
鞭を馬の体にあびせた時——

暗黒しかなかった辺りの野が
突如として光に包まれた

暗黒に馴れすぎていた彼の双眸は視力を奪われ
馬は馬で怯えたように掉立ちになった——

彼は馬から振り落とされた
馬は光の彼方へ走っていった

そして彼は前面を愛の光の壁に
両横の面を希望の輝きに包囲された——
後ろにあるのは彼がこれまでに経験してきた絶望だけ——

彼はもはや戦おうとは思わなかった

腰に帯びている剣を鞘から抜く気力すらなかった
そしてただ自然と忘れてしまったのだ——
自分が何をあれほど憎悪していたのかを——

ひとたび、愛の衣に包まれてしまうと——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



飢え渴き傷つき、疲れ果てた心よ
わたしはおまえのために一体何をしてやれよう

もはやどのような美酒をも
おまえのひび割れた唇は受けつけまい
どのように美味なる果実でも
おまえの破れた腹には届くまい

それにおまえはあまりにも傷つきすぎた
どのような治療薬も軟膏も包帯も
今のおまえの荒れ果てた心を包み込むことなどできはしない

今のおまえに必要なものはただひとつだけ——
苦痛を終わらせるための〈死〉という名の特効薬——

それだけがおまえを癒すことのできる唯一のもの
ただひとつの〈永遠〉なのだ

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしはいつも死の陰を見つめて
人生を歩んできた——
死の陰——死の暗い谷間というものを

谷底を流れる闇のほとりで
〈死〉はわたしによくこう言った——

〈私はおまえを愛している〉
〈おまえを私ひとりのものにしたいのだ〉
と——

わたしは彼に抵抗した——
〈わたしを真実ほんとうに愛しているのなら
今すぐわたしの心と体を光あふれる国へと明け渡すべきだ〉
とそう言って——

わたしは〈死〉に逆らいながらも絶望していたが
その翌日の朝早く、彼はわたしを本当に
希望の最高峰にまで連れていってくれた——

そしてわたしはひとりになって初めて知ったのだ
彼が真実、本当にわたしを愛してくれていたということを――

わたしは山を降って下りてゆき
彼にお礼を言いにいこうと思ったが
谷底を流れる川のほとりに
彼はすでに存在していなかった

わたしは思った
わたしはもう死ぬまで二度と彼には会えないのだと――

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



心が雷鳴に引き裂かれていたとしても
わたしたちは歯を食いしばり
生きていかなければならない

何故なら
それが血の宿命というものだから

わたしたちは奴隷のように
重い岩石を背負わされても
生きていかなければならない

何故なら
それが骨の宿命というものだから

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



わたしは死にたい
稲妻に打たれたかのように一打ちで

きっと多くの口さがない人々は
わたしの黒焦げになって死体に向かって
こう囁きかわすことだろう

「この人はなんと罪深い人だったのだろう
このような形で死を迎えなければならなかったとは」
などと――

けれどもきっと誰ひとりとして知りえない
わたしが黄金の至福と恍惚に打たれて
生きたまま天に上げられたことなどは――

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_ _)m)



わたしは心が
外側の圧力に耐えかねて
ガラガラと崩壊する音を聞きました——

夜空を縁どる稲妻の光はとても美しいけれど
わたしの心を引き裂くあの稲妻の音を
わたしはあまり好ましいとは思えない——

それはいつもなんの前触れもなしにやってきて——
わたしの心を曇らせる
晴天の霹靂——

でも雷が歓喜と恍惚の使者である時——
わたしは雨と嵐とをこの上もなく愛する——

魂が裸で緑の上を踊りだす瞬間を——
天の雷鳴に祝福されて——

moon.com/>のものですm(_)m)



嵐の夜

雷光がわたしの頬を何度も打っていた

窓を見ると激しい雨

なんという胸踊る激しい光景

轟音のあとの閃光が夜の闇を引き裂いていて——

そしてまた稲妻が

わたしには見えていた

嵐の手招きする透明な腕が

またその声が聴こえていた

「こっちへおいで」と誘惑する甘美な声が

まるで遠く海を渡ってきたセイレーンの豎琴の音であるかのように

その歌声はわたしを魅了し虜にした

外へ出ると

風は烈しく合唱しながら

わたしの体を引っ張った

行き先を問いかけることすらまなならず
わたしは風の引力に導かれて
裸足のまま畦道を駆けていった

夜の空気は濃密で
空は不気味な明るい美しさを湛え——
これこそが自然本来の本能そのものなのだ
わたしは思った

暖かい雨に濡れながら
わたしは風の背後にいる存在に声なき声で尋ねてみた
「わたしも仲間に加えてもらえるの？」
と——

彼はわたしを知っていた
わたしも彼を知っていた
一度も会ったことのない
とてもよく見知っている人だった
そして野原の向こうに一本の大木が待っていた——

みんなはどうやらそこにわたしを連れていきたいらしかった

わたしは走った
あともう少しで<永遠>にこの手で直に触れることができるのだと思って——

<永遠>そのものに抱かれるということ——
それは生きとし生ける者のすべてが願ってやまないこと

わたしは狂喜した——否、それ以前からすでに気が狂っていたのかも——
そしてあと数歩というところで
押しとどめようとする何者かの腕があった——

それから天空で雷鳴が鳴り響き——
世界は白一色に染まった……

どのくらい長い間
わたしは濡れそぼった野の草の上で眠りこんでいたのだろう

わたしは自分が死んでエデンの園に引き上げられたのに違いないとすら思っていたのに——
辺りを見回してみると
そこは以前と変わらぬ地上だったのだ

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



あなたはわたしのただひとつの
汚れのない清らかな導管（くだ）

あなたを通してこそ
わたしは生きられる

あなたはわたしのただひとりのアダムであり
ただひとりの恋人（ダヴィデ）

（☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m）



わたしがどんなにあなたを愛しているか
お見せできるといいのに

でもそれは心臓の鼓動を見せるのと同じく
不可能なこと——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



五感を使わなくても
わたしは恋をすることができる

何も見えなくても
何も聴こえなくても
匂いを嗅ぐことができなくても
何ひとつこの手で確かめることができなかつたとしても

わたしは至上の恋をすることができる

何故ってわたしの魂は
五感を絶つたその先の世界をよく知っているから——
かの〈永遠にわたる王国〉のことを——

そして〈どこにもない国〉とは——
いつでも人の心の中にこそあるのだということを
わたしの魂はよく知っている——

だから肉体の目で
見たり聴いたり
嗅いだり感じたりなんていうことは——

魂の至高の恍惚に比べたら
ほんのとるに足りないこと——

(☆挿絵イラストはすべて「幻想素材サイトF i r s t M o o n様」<<http://www.first-moon.com/>>のものですm(_)m)



誰に見せるというのではなしに
乙女らは美を装い
婚礼の場へと急ぐ

おお、神よ
天上の愛とはいつも
このようなものなのでしょうか

もはや老いも若きも関係なく
貞潔を守った乙女らは
あなたの優しい羊飼いのような御腕に
抱かれることが許されるのでしょうか——



わたしたちは誰も
イエスさまの愛を越えることはできない
イエスさまの身代わりになることもできない

ただイエスさまがわたしのことを愛してくださったように愛すること——
わたしにできるのはそれだけです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



主よ

わたしが苦しみの床に横たわる時
一体誰がわたしを悩みの底から助けだすでしょう

わたしの近親者も親しい友人も
わたしの絶えざる苦しみを
遠い淵から見下ろすばかりです

主よ

わたしが苦しみの床に横たわる時
黄泉の勢力からわたしを救いだすのは

お金でもなく医者でもなく
ただあなたおひとりきりなのです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



ああ 魂には安らぎを
肉体には菊の花

わたしが死んだ時にも
人々はそのようにして下さるでしょうか

「この方は天国のために尽されました」
とそう言って――

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



神が道を開くなら
わたしたち人間にそれを閉ざす術はない

また神が扉を閉ざすなら
わたしたちがあまりに重いその扉を開くことは不可能だ

神がわたしたちの謀や隠しごとや
心の秘密をすべて見通しているのに対して——

わたしたちが神の叡智の引きだしを探り当てることは
おそらく永遠にできないのに違いない

<科学>という名の愚かで無知な手段で
神の力をいくら挑発しても——

神が人間の手をひねり上げることなどは
あまりに容易いことだから

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人間は自分の愚かさを
悟ることができない

戦争は悪いことだと言いながら
軍事費をさらに拡大し

核の恐ろしさを嫌というほど知りながら
またさらに実験を繰り返す

人間は自分の愚かな手の業を
悟ることができない

<神>と呼ばれる人が現れて
良いことと悪いことの区別を
はっきりとつけてくださらない限りは——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



目が見えていても
暗闇の中にとり残されている者は大勢いる

耳が聞こえていても
一番大切な言葉を聞き逃している者も大勢いる

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



人間は醜くて汚らわしい下等生物
一体誰がこんな者どもに
<高等動物>だの<霊長類>だのという
胡散臭い称号を与えたのか

科学者たちは卑劣でいやらしいやり方で
自然や動植物や地球全体を犯してまわっている

彼らは機械のように感情や情緒といったものに乏しく
おそらくは自分が何をしているのかもよくわかっていないに違いない

おかげで今では＜自然＞は＜不自然＞なものとなり
人間との結婚を強いられた地球という名の乙女は
毎日暴力的な夫に苦しめられている

この＜人間＞という名の
アルコール中毒で薬物中毒にも陥っている手に負えない暴君は
妻の体の隅から隅までを傷つけ痛めたので——
天の法廷では現在＜離婚調停中＞なのだ

＜地球＞という名の純潔を失った美しい乙女は
証言台に立ってすすり泣きながら神にこう訴えた——

「わたしたちの夫婦生活は破綻しています
わたしは早く未亡人になって
人間のいない世界でもう一度暮らしとうございます」
と——

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



地上で露になった罪に対しては
弁護士が弁護してくれよう

けれども魂の有罪判決に対して弁護してくださる方は
主なる神イエス・キリストただひとりぎり——

もしもこの方を拒む方があれば
その者は自分で自分の裸の罪について
弁護しなければならなくなる

そして主イエスは検事の役割を担い

父なる神は裁判官——

この裁判の被告の勝訴する確率は
一体どこにあるのだろう

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



「わたしにも背負わせてください」
とわたしはあの方に懇願致しました

カルヴァリの道はなんかつらく
ゴルゴタの道程はなんと遠いことでしょう

それなのにあの方は血の跡の残る眼差しで
わたしにこう言ったのでした
「我に触れるな」と――

それでわたしはよろめきながら歩くこの方のあとを
どこまでも追っていくことにしようと心に強く決めたのです

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」<<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)



わたしは思いだす
わたしの魂に暴徒が群がり
大怪我をした日のことなどを

わたしはどのような人間の苦しみにも耐え忍び
またどのような人間の憎しみにも怯まなかった

わたしの怯えはゲッセマネで退き
天の御使いたちはわたしの体を支えることさえ許されなかった

わたしは十字架を背負ってゴルゴタの丘へゆき
その場所で磔にされ
多くの人々のため血を流して祈った

あれから塵界では約二千年あまりもの歳月が流れたが
人々のありようはあの頃とあまり変わらない

わたしに出来ることはといえば
天の門を御使いたちに命じて

出来るだけ大きく広げておこうとすることぐらいだ

(☆挿絵イラストは「幻想素材サイト F i r s t M o o n 様」 <<http://www.first-moon.com/>>の
ものですm(_ _)m)

水瓶座のミューズ

<http://p.booklog.jp/book/27962>

著者：ルシア

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/lmnlive/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/27962>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/27962>